TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

主は王である　さびた金
ヤコブの手紙 5:1-6

2023年1月28日&29日
余沢　武 牧師

I.　初めに

こんにちは。イエス様の兄弟であるヤコブが書いた手紙を楽しんでいらっしゃるでしょうか。これまでに、本当の問題は対立や批判ではなく、私たちが「私たちは誰なのか」そして「神は誰なのか」をきちんと分かっていないことである、と学びました。

私たちは人生のコントロールは神様にお任せし、神様を愛し、信頼し、神様の御言葉に従い、そして神様が私たちの人生に置かれた人たちを愛することに集中しているべきなのです。今日は、それを忘れてしまうと何が起きるか、もう一つの例を見てみましょう。まずは祈りましょう。

II.　さびた金

(1)　富が証拠となる

ヤコブ 5:1「さて、富んでいる人たち、自分に降りかかる不幸を思って、泣き叫びなさい。」

ヤコブは「富んでいる人たち」に「泣き」、「叫ぶ」ように言っています。聖書の原文で「泣き」に当たる単語は、実は「悲鳴を上げる」という意味です。この単語は旧約聖書の審判に関する文脈でのみ用いられる単語です。つまりこの単語は「神の審判」にかかる時を迎えた人たちの恐怖を表しています。

聖書は「富んでいる人たち」すべてを有罪としてはいません。聖書には神を敬う「富んでいる人」がたくさん書かれています。例えばアブラハム、ヨブ、ダビデ、アリマタヤのヨセフそしてザアカイです。「富んでいること」自体は悪ではありません、しかし私たちすべてにとってそれが大きな誘惑になることも、また事実です。

人生で「良いもの」や「助けになるもの」はたくさんあります。しかし私たちが、例えば車、ナイフ、電気、といったものに気を付けて扱わなければ、私たちを滅ぼしかねません。

「富」や「金銭」も同様に、非常に助かります。しかし注意して取り扱わないと、自分や周りの人たちの人生を破滅させます。

どのように？ 2-3節でヤコブが説明しています。

「[2]あなたがたの富は朽ち果て、衣は虫が食い、[3]金銀もさびてしまいます。このさびが、あなたがたを訴える証拠となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くすでしょう。あなたがたは、この終わりの日々にありながら、宝を蓄えたのです。」

ヤコブはなぜ「富」や「金銭」が危険になり得るのか説明しています。古代では「富」や「金銭」の貯えかたは3つありました。

① 穀物・穀粒として保存。しかし長期に渡って保存すると、腐ってしまう。
② 衣類として保存。しかし 長期に渡って保存すると、虫に食われてしまう。
③ 金や銀として保存。 理論的には金や銀はさびないが、当時の優れない硬貨の鋳造技術のために、長期に渡って保存すると、不純な金や銀の硬貨は保管条件によってはさびてしまった。

ここでヤコブが言っているのは、大量の財産を長期に渡って貯えていると、「審判の日」が来たとき、その財産は持ち主に不利な証拠となるということです。ヤコブは富が「あなたがたの肉を火のように食い尽くすでしょう。」と言っています。つまり持ち主は、その富の結果として「地獄」を宣告されるという意味です。

そしてヤコブが、その教会で注意を向けていた「富んでいる人たち」は、自分をクリスチャンだと思っているけれど実際には救われていない、と考えていたことが明らかです。

イエス様曰く**「[24] 誰も、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を疎んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」マタイ 6:24**

教会には自分は富みに仕えるのは止めて、神様に仕えるようになったと思っている人たちがいるように見えるが、しかし彼らの富の運用の仕方を見ると、実はそうではないことが分かるということです。

聖書は言っています:
「そこで、私は言っておくが、不正の富で友達を作りなさい。そうすれば、富がなくなっ たとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる。」(ルカ16:9)
クリスチャンとして、私たちが迷える人たちへの伝道のために財産を使うことによって、その人たちも私たちと一緒に天国に行くことができます。

「同じように、主は、福音を宣べ伝える人たちには福音によって生活の糧を得るようにと、命じられたのです。」(1コリント9:14)
クリスチャンとして、私たちは福音伝道を助けるために財産を使うべきです。

「盗みを働く者は、もう盗んではいけません。むしろ、労苦して自らの手で真面目に働き、必要としている人に分け与えることができるようになりなさい。」(エフェソ4:28)
クリスチャンとして、私たちは必要としている人を助けるために財産を使うべきです。

「あなたがたは地上に宝を積んではならない。そこでは、虫が食って損なったり、盗人が忍び込んで盗み出したりする。宝は、天に積みなさい。そこでは、虫が食って損なうこともなく、盗人が忍び込んで盗み出すこともない。」(マタイ6:19-20a)
クリスチャンとして、私たちは神の御国の仕事ために財産を使うべきです。

だからこそ、私たちは …
「十一献金・献金」を教会にすることで「神の御国の仕事」や「福音伝道」を助ける。
「インパクト・ビルディング基金」に献金し将来の「神の御国の仕事」を助ける。
迷える人に伝道するために「世界宣教献金」に献金する。
必要としている「兄弟姉妹」に分け与える。

ヤコブによると「富んでいる人たち」が財産を蓄えることで、その財産が、彼らが「神」ではなく「金銭」を崇拝していたことを証明し、彼らが「神」を信じる代わりに「金銭」に信頼を置いていたことを明らかにします。

正直に言って、これは誰もが悩みがちな領域です。確かに神様は、私たちに「収入」を与え、「私たちの必要」や「家族の必要」を満たしてくださっています。また「責任ある管理者」として「万が一の事態」や「将来の必要」に備えて貯蓄をするのも適当な行いです。

私はまだ若いクリスチャンだった頃、貯金には大反対でした。しかし神様が私たちに祝福と共に子供を授けて下さると、私は悩み、自問自答しました。「必要が予測される子供の将来の学費を、貯えておかないというのは適切なことなのか？」

始めは、私は貯金したくありませんでした。神様が将来備えてくださると信頼したかったのです。でも自身に問いました。「でも神様は信頼して私たちに子供たちとお金を任せてくださって、それは子供たちに用意するためなのではないか？」と。たくさんの祈りの後、神様は子供たちの「将来の教育」への貯蓄について、私に平安をくださいました。

これは私たちすべてが、祈りによって神様に聞かなければならない領域です。「緊急事態」や「将来予測される出費」に備えての「貯蓄」に適正な額はいくらなのか。十一献金やその他献金、ビルディング基金、宣教献金、そして必要としている人と、いくら分かち合うべきかなどです。

私たちの「貯える方法」と「捧げる方法」が神にあって信仰と栄光を表すものでありますように。

(2) 人々が証人になる

ヤコブは続けます。**ヤコブ 5:4「[4] 見なさい。畑の刈り取りをした労働者にあなたがたが支払わなかった賃金が、叫び声を上げています。刈り入れをした人たちの叫びが、万軍の主の耳に届いています。」**

ヤコブは金銭に仕えている「富んでいる人たち」に、彼らの「財産」が証言するだけでなく、「彼らに関わった人たち」も彼らに不利な証言をするだろうと言っています。

大昔の「農場主たち」は、毎日仕事が終わったら、「労働者たち」にその日の給与を払うように定められていました。「労働者たち」と「その家族たち」が飢えることのないためです。しかし、この裕福な農場主たちは口では、もう金に仕えず神に仕えると決めた、「神と隣人を愛する」と言いながら正反対のことをしていたのです。

この節は、数年前に兵庫県の高齢者向け施設で起こった悲劇を思い出させます。施設の女性介護職員が、認知症の 80 代男性に、一晩に 42 回に渡って殴る蹴る、髪をつかんでベッドから引きずり降ろすなどの暴行を加えていたのです。

この職員は後に、ストレスのはけ口としてこの男性に暴行を加えたと告白しました。彼女はこの男性を愛し世話をするためにこの施設にいたのです。しかし反対に、彼女はこの男性を虐待し、傷つけました。

これこそが、この「偽クリスチャン」たちがしていたことです。「神と隣人を愛する」と決めたと宣言しておきながら、他者の幸福や利益など気にもかけないのです。結果、彼らの「財産」が証言するだけではなく、「彼らの人生に関わった人たち」も彼らに不利な証人になるのです。

(3) 贅沢なライフスタイルが証人となる

それだけではありません。**ヤコブ 5:5-6「[5] あなたがたは、地上で贅沢に暮らし、快楽にふけり、屠られる日のために自分の心を肥やしたのです。[6] あなたがたは正しい人を罪に定めて殺しました。その人は、あなたがたに抵抗していません。」**

神に託された財産を「神と隣人を愛する」ために使っていないだけではなく、彼らは自分自身を愛することに使っていたのです。

何年か前、韓国である団体の役員数名が逮捕されました。その団体は、恵まれない子供たちのために 12 億円(900 万ドル)の寄付を受け取りました。それを子供たちに与える代わりに、この役員たちは自分の高価な車を買い、海外旅行やパーティーにお金を使いました。人々から彼らに、子供たちのためにと託されたお金が、団体役員たちの「贅沢な暮らし」や「自身の道楽」のために使われていたのです。

これこそまさに、ヤコブの時代の「富める人々」がしていたことです。「神と隣人を愛する」ために用いるようにと神様が託されたお金が、彼らの「贅沢な暮らし」や「自身の道楽」に使われていたのです。その献金や分かち合うことで助けられたであろう人たちは、困窮していました。

ヤコブは彼らが「屠られる日のために自分の心を肥やした」と言いました。彼らは自らの心が望むものを得ることに財産を使い、彼らは自分自身を「審判」へと導いていたのです。

しかし私たち自身が自分に問うべきなのは、自分はどうだろうか？この大昔の人たちと比較して、私たちは皆ずっと裕福で、皆大いに金銭の誘惑にさらされています。ヤコブは私たちを見てなんと言うでしょう？私たちが自らをはかってみると…
「私たちの貯め方」と「私たちの与え方」で私たちは有罪となるだろうか。
私たちに関わっている人たちの「叫び」で、私たちは有罪となるだろうか。
私たちの「ライフスタイル」で、私たちを有罪となるだろうか。
「私たちは神様に仕えている」ことが証明されるか、それと「私たちが金銭に仕えている」ことが証明されるか。

ヤコブは、もし私たちが有罪であるとしっているのならば「泣き叫びなさい」と言っています。
イエス様は私たちを救いに来られたのです。

イエス様の十字架のもとに来て、罪を告白しましょう。
イエス様は、私たちの罪や金銭を愛する心のために死なれ、そして甦られたことを信じましょう。
イエス様に赦しを乞い、私たちが「富」ではなく「イエス様」に頼るように変えてくださることを願いましょう。
イエス様に私たちを「喜んで与える人」「信仰の男性と女性」にしていただきましょう。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg0423jp

★クラス 301
賜物発見クラス
2月5日（日）13：00～17：00
★クラス 401
ミッションの発見
2月19日（日）13：00～17：00
★クラス 101
教会員になるためのクラス
2月26日（日）13：00～17：00

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu

奉仕者募集中！

1．週末礼拝メッセージ翻訳者
1か月半に1度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語を日本語へ翻訳します。

2．日本語字幕オペレーター
月1回～各礼拝の時間（特に3時、5時の礼拝募集）の字幕のページをめくる奉仕です。英語を聞いて日本語がどの翻訳部分かわかる程度の英語力が必要です。操作は矢印キーを押すだけの簡単なものです。

3．日本語字幕作成/オペレーター
月1回～土曜日16時～
プロプレゼンターというソフトで翻訳された原稿を字幕に落とします。操作は簡単で1回のトレーニングで作成できるようになります。作成に1時間くらいかかります。その後19時からの字幕オペレーターもお願いします。

連絡先（ひろみ）：
hiromik@tokyobaptist.org